

第49回IRIDeS金曜フォーラム

日時：平成29年9月22日（金）16時30分～18時30分

会場：東北大学災害科学国際研究所1階多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

テーマ：「災害研究とメディアの関わり」

1. 16:30～16:50（発表20分）

タイトル：メディアとの連携による災害知見の社会発信－IRIDeS広報室の視点から－

話題提供者：中鉢 奈津子（災害科学国際研究所 広報室）

発表要旨：災害研究を専門とする研究所にとり、メディアと連携した災害知見の社会発信は極めて重要である。しかし、学術とメディアがすれ違い、互いに「近くて遠い隣人」といった存在になることも稀ではない。本発表では、IRIDeS 広報室のメディア対応状況を概括した後、広報室が社会連携オフィスと協働で実施してきた、学術－メディア間の相互理解を深めるための企画およびその成果を紹介し、今後の課題と展望を述べる。

2. 16:50～17:15（発表25分）

タイトル：学術のメディア発信とメディアの学術取材

話題提供者：菊間 深哉（河北新報社・編集局報道部 記者）

発表要旨：東日本大震災から6年半がたち「風化」が取りざたされるのと同時に、メディアが災害研究を取り上げる際のハードルも上がりつつあるようだ。南海トラフ地震などの巨大災害が予想される以上、防災意識の醸成や読者の一定の関心を考えると、災害研究をうまくメディアにのせ続けていく必要は今後もある。そのために学術機関（研究者）とメディア（記者）の関係をどう築くべきか。現場で取材する記者の立場から現状と課題を報告する。

3. 17:15～17:40（発表25分）

タイトル：放送局の災害報道と研究者の情報発信について

話題提供者：齋川 裕（東北放送・報道制作局 報道部長）

発表要旨：活字メディアとは異なり、映像と音声を使って災害を報道する放送局は、災害研究者にどのような情報発信を望んでいるのか。そしてどのような情報発信が、放送局として報道しやすいのかを、過去の事例をもとに考える。またメディア側の不十分な知識や取材で、誤った情報が視聴者に伝わるような事態を起こさないためには、災害研究者とメディアが日頃からどのような関わり合いを持てばよいのか。国内の先例を紹介しつつ提言する。

4. 17:40～18:00（発表20分）

タイトル：「社会発信のための災害研究フリーマーケット」の試み

話題提供者：佐藤 翔輔（災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ分野）

発表要旨：2017年7月29日に、「記事になる研究成果の発掘」を目的にした、メディア関係者と研究者の対話形式のワークショップを企画・開催した。昨今、「新しい成果」がメディア掲載される傾向にあるが、論文や学会発表で既に報告されたものを、メディアを通して「掘り起こす」ねらいで実施した。これは、メディア関係者に集中的・短期的に情報提供や対話を行うことで、メディアと研究者の協働による効果的な情報発信に取り組む企画である。この企画実施に至った背景、概要、その後の経過について報告する。

5. 18:00～18:30 質疑／総合討論（30分）

司会・進行：伊藤 潔（災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科分野）